



# 長野県教員研修体系(案)

教育長あいさつ

## 目 次

1	長野県教育の理念と教員の使命・任務	1
2	長野県の教員に求められる資質能力と これからの研修の在り方	2
3	ライフステージに応じた教員研修	3
4	教員研修における連携・協働と研修履歴 「セルフチェックシート」	5 6
5	教員研修の評価 長野県教員研修体系作成会議委員名簿	7 8

平成25年11月 長野県教育委員会

# 1 長野県教育の理念と教員の使命・任務

〈めざす人間像〉 知・徳・体が調和し、社会的に自立した人間

## 長野県の学校教育の理念

子どもの内なる力を伸ばす教育 地域と共に歩む学校

本県の教員は、学習の主体者である児童生徒を中心にした教育を求めてきた。それは、児童生徒が、内なる力を存分に発揮し、自ら学んでいく教育であり、一人ひとりの個性的な学びが尊重される教育である。このことは、本来子どもは限りない可能性を秘めており、常に学びたいという欲求をもつ存在であるという子ども観に立脚している。本県は、今後も児童生徒の視点に立ち、一人ひとりが輝く教育を求めていく。

また、本県の学校は、教育に関心の高い地域の人々により支えられてきている。児童生徒に「生きる力」を育み、本来もっている力を伸ばすには、今後、更に地域との信頼関係を深め、連携し協働することが必要である。保護者や地域の人々が「学校づくり」に積極的に参画し、地域と共に歩む学校が、本県の求める学校像である。

これらのことが実現するとき、知・徳・体が調和し、自分を価値ある存在と感じるとともに自他の人権を尊重する精神を持ち、社会的に自立した人間に成長していくものであると考える。

## 長野県の教員の使命・任務

子どもの命と安全を守り、夢や可能性を育む  
専門性を磨き、人間力を高めるために学び続ける

「守り 育み 学び続ける」

児童生徒が主体的に学んでいくためには、安全安心な学校や学級が不可欠である。児童生徒の命と安全を守るとは、何よりも優先して教員に課せられた使命であり、任務である。このことは、児童生徒の人権を守り尊重することでもある。また、児童生徒の夢や可能性を育み、確かな学力を定着させることは教員の責務であり、日々の授業の充実に努めることが重要である。

更に、教育のプロとして、常に専門性を磨き、人間力(社会を構成し運営すると共に、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力)を高めるために学び続けることも、教員としての使命・任務である。このように教員が学び続けることにより成長していくことは、児童生徒の成長の源でもあり、児童生徒の成長にかかわれることは、教員の喜びであり、やりがいである。

「深雪せる 野路に小さき沓の跡 われこそ先に行かましものを」と歌った我が県の先達林芋村先生の、子どもに寄せる思いや子どもを慈しむ心を、本県の教員として大事にしていきたい。

## 2 長野県の教員に求められる資質能力とこれからの研修の在り方

長野県の教員に求められる資質能力  
～信頼される存在をめざして～

### B 確かな人権意識と共感力

- ① 全ての人の人権を尊重する態度
- ② 児童生徒や保護者の思い(悲しみや喜び)を感じ取る力

### C 地域社会と連携・協働する力

- ① 地域社会の発展に主体的に寄与する力
- ② 郷土を愛し、地域の自然、歴史、文化及びそこに住む人々を尊重する態度

### D 目標実現に向け、柔軟に対応する力

- ① 知識や技能を常に刷新しようとする意欲や態度
- ② 同じ目的に向かってチームで対応する力

### E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能

- ① 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践する力
- ② グローバル化、情報化、特別支援教育等の課題に対応できる力

### A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解

- ① 社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在
- ② 教員としての責務の自覚
- ③ 子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛

長野県教育委員会はこのような研修をめざします

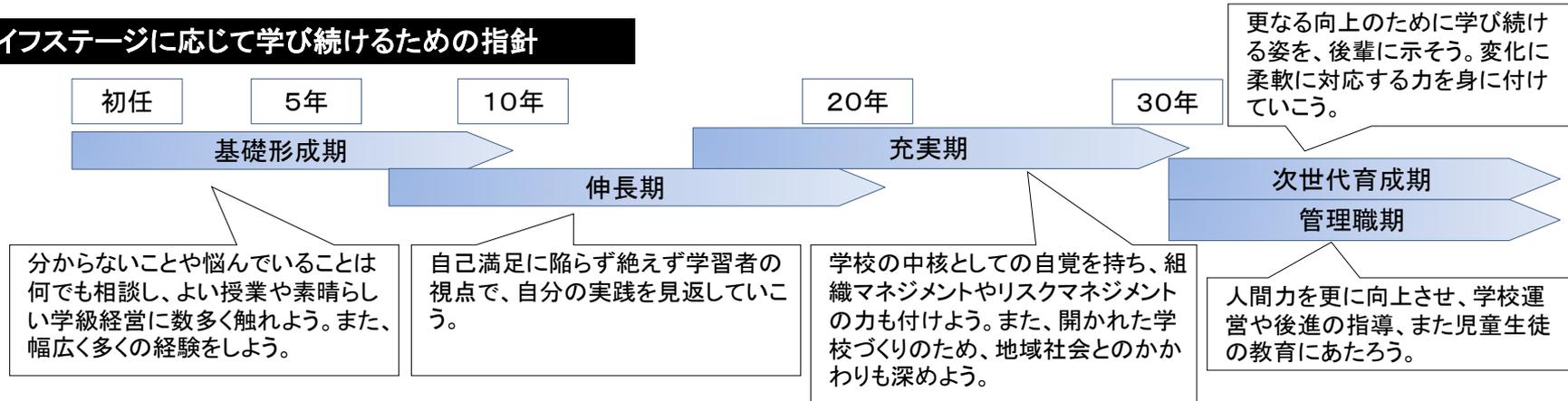
- 1 「集める」研修から、「出向く」研修へ
  - ・校内研修や地域で行われる研修の重視
  - ・日々の教育活動をベースにした研修の重視
- 2 「広く人と交わること、体験すること」を重視し、人間力を高める研修へ
  - ・幅広い教養や視野を持つための研修の重視
  - ・実効性を高めるため、講義型と参加・体験型の研修をバランスよく実施
- 3 さまざまな機関と連携・協働し、開かれた研修へ
  - ・市町村教育委員会や大学・教育団体をはじめ、民間団体や地域の方々等との連携・協働
  - ・研修結果を確認し、成果を広く還元する仕組みについて研究
- 4 自主的な研修の重視
  - ・教育現場の多様なニーズや課題に応える研修の実施
  - ・自主的な研究会等との連携
  - ・自主的に学んだ成果を評価する方法の検討

先生方の研修はこう変わります

- ・日々の教育活動につながる、校内や近隣における身近な研修を一層重視します。
- ・教員だけでなくさまざまな方とのかかわりの中で、多様な見方や考え方を学びます。
- ・演習や実習等の体験的な研修により、実践的な力が付くようになります。
- ・自己課題を解決させる見通しが持てるようになります。
- ・自己の振り返りをもとに、今後の課題を明確にして、教員としてのキャリアアップを図ります。
- ・自分の研修の積み重ねが実感できるようになります。

### 3 ライフステージに応じた教員研修

#### ライフステージに応じて学び続けるための指針



#### A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解

教育関連法規を学び、教員の社会的責務への理解を深める。自己の振り返りと、保護者や地域からの評価等を基に、常に自己を見返す  
 児童生徒をよく見ることに徹し、児童生徒理解を深める  
 これまでの子ども観を見返し、さらに児童生徒理解を深める  
 後輩を育成するという使命を自覚する  
 管理職としてのより高い倫理観と使命感を持つ

#### B 確かな人権意識と共感力

児童生徒や保護者の話をよく聴く。そのための手法を常に学ぶ  
 自分はもちろん、同僚のあり様にも配慮する  
 的確なリスクマネジメント能力を身に付ける

#### C 地域社会と連携・協働する力

教員が社会的な存在であることを自覚する。 地域社会に開かれた学校づくりを具体的に実践する  
 社会体験(異業種体験・福祉体験)などを積極的に行う  
 地域にある素材を積極的に教材化する  
 地域の教育力を有効に活用するマネジメント力を身に付ける

#### D 目標実現に向け、柔軟に対応する力

教育等に係る最新情報に常に触れ、課題意識を持つ  
 分からないこと、困っていることを同僚や上司に相談する  
 教科会や学年会を運営するためのスキルを身に付ける  
 管理職として、人間力と学校経営力を獲得する

#### E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能

よいものや必要なものを学ぼうとする意欲と謙虚さを持つ  
 よい授業を数多く見る  
 先輩教員の技に学ぶ  
 後輩へ教育技術を伝達する  
 管理職として信頼される評価力を身に付ける

# ライフステージに応じた節目の教員研修

## 1～3年 初任者研修（現行：校外研修25日、校内研修300時間）

### <改善の方向>

- ・倫理観や遵法精神を高める研修や、今日的な教育課題に対応できる力を付ける研修を充実させる。
- ・校内や近隣における身近な研修を重視し、勤務校で初任者を育てる仕組を強化する。
- ・5年経験者とのクロスエイジセッション（異年代の教員とのディスカッション）により、課題解決を支援する。
- ・体験的な研修を充実させ、実践力の向上を図る。（他校体験研修、異校種体験研修、異業種体験研修）
- ・セルフチェックシート等を用いて、自分の研修について振り返り、自己評価する。（2年次研修）

## 5年 5年経験者研修（現行：校外研修2日）

### <改善の方向>

- ・セルフチェックシート等を用いて、自分の研修について振り返り、自己評価する。
- ・初任者とのクロスエイジセッション（異年代の教員とのディスカッション）により、自分の実践を見直し、キャリアプランを考える。

## 10年 10年経験者研修（現行：校外研修10日、校内研修20日）

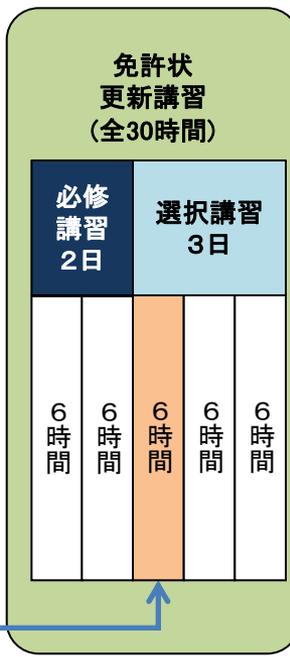
### <改善の方向>

- ・地域の方と連携して進める授業や、さまざまな人と交わる異業種体験研修の充実により、人間力の向上を図る。
- ・自分史づくり（ライフラインチャートを描く）とセルフチェックシートを用いて、研修の自己評価をする。
- ・新規にキャリアアップ研修を行うため、校外研修の日数を減ずる。

## 43～44歳 キャリアアップ研修

○学び続ける教員を支援するため、教員としてのキャリアアップを考える研修や、中堅教員としての実践力を高める研修を、平成26年度から導入。

○研修の目的	・充実期の教員としての資質能力の向上	・ミドルリーダーとしての実践力の獲得					
○研修計画の作成	学校長との面談を通し、キャリアアップ研修の目的を実現するための研修計画を立案する。						
○研修の実施	<table border="1"> <tr> <td>校外研修 2日</td> <td rowspan="2"> <b>校外研修A</b> (1日)  <b>校外研修B</b> (1日)                 </td> <td> <b>実施方法</b> ○県教育委員会が指定した免許状更新講習の選択講習を受講する。                      （この講習を受講しないものは、総合教育センターで開講される同内容の研修を受講する。）  <b>研修内容</b> ○少人数グループを中心にした参加体験型で次のような内容とする。                      ・学校組織マネジメントと危機管理 ・キャリアプランの作成とシェアリング 等                 </td> </tr> <tr> <td>校内研修 1日</td> <td> <b>実施方法</b> ○学校長と相談し、これからのキャリアアップのため、今、最も必要と思われる研修を実施する。  <b>研修内容</b> ○自校以外での研修を原則とする。                      （例）・研究実践校の視察 ・専門的な技能を持つ人から学ぶ 等                 </td> </tr> </table>		校外研修 2日	<b>校外研修A</b> (1日) <b>校外研修B</b> (1日)	<b>実施方法</b> ○県教育委員会が指定した免許状更新講習の選択講習を受講する。 （この講習を受講しないものは、総合教育センターで開講される同内容の研修を受講する。） <b>研修内容</b> ○少人数グループを中心にした参加体験型で次のような内容とする。 ・学校組織マネジメントと危機管理 ・キャリアプランの作成とシェアリング 等	校内研修 1日	<b>実施方法</b> ○学校長と相談し、これからのキャリアアップのため、今、最も必要と思われる研修を実施する。 <b>研修内容</b> ○自校以外での研修を原則とする。 （例）・研究実践校の視察 ・専門的な技能を持つ人から学ぶ 等
校外研修 2日	<b>校外研修A</b> (1日) <b>校外研修B</b> (1日)	<b>実施方法</b> ○県教育委員会が指定した免許状更新講習の選択講習を受講する。 （この講習を受講しないものは、総合教育センターで開講される同内容の研修を受講する。） <b>研修内容</b> ○少人数グループを中心にした参加体験型で次のような内容とする。 ・学校組織マネジメントと危機管理 ・キャリアプランの作成とシェアリング 等					
校内研修 1日		<b>実施方法</b> ○学校長と相談し、これからのキャリアアップのため、今、最も必要と思われる研修を実施する。 <b>研修内容</b> ○自校以外での研修を原則とする。 （例）・研究実践校の視察 ・専門的な技能を持つ人から学ぶ 等					
○研修の報告	・校外研修A、Bで得た成果と、校内における自己の役割や研修実施についての振り返りを基に、学校長との面談を通して、今後の自己の在り方をまとめ、報告書を作成する。						
○研修の報告	・完成した報告書は、県教育委員会及び市町村教育委員会へ提出。（県立学校の教員は県のみ提出）						

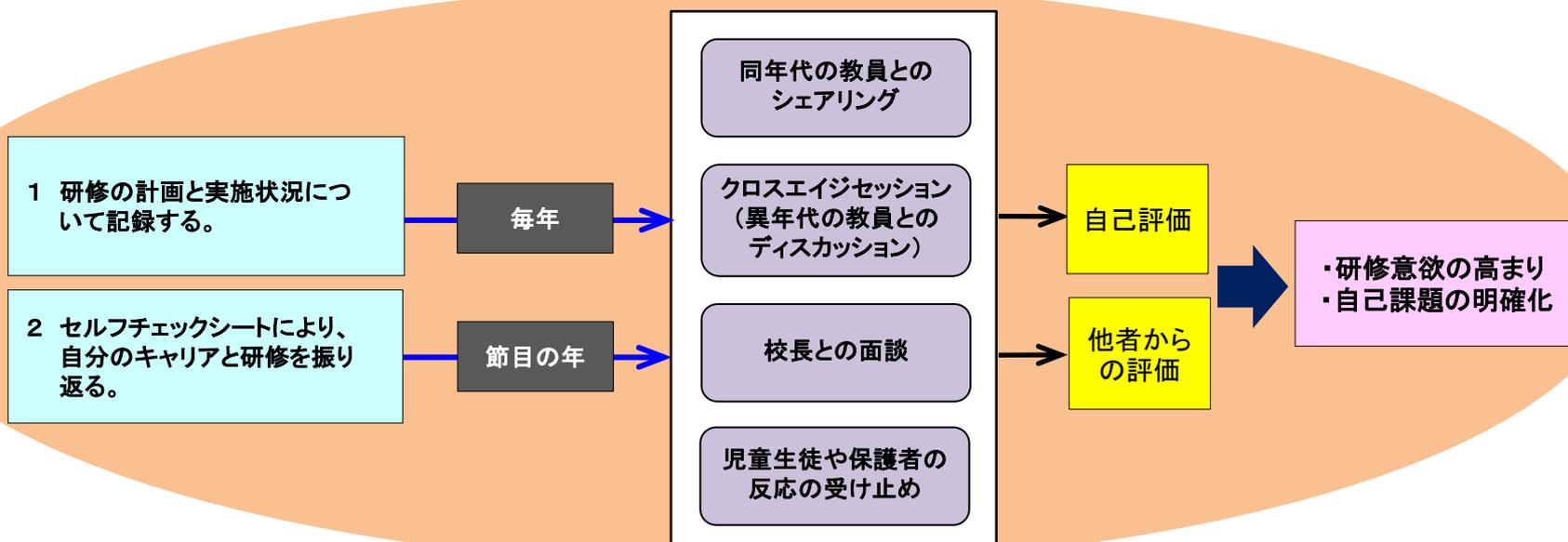


## 4 教員研修における連携・協働と研修履歴

### 教員研修における連携・協働

- ・市町村教育委員会や大学、教育団体、民間団体等が実施している、それぞれの特長を生かした教員研修との連携・協働を深める。
- ・研修の実施に当たって、研修の方法や内容、人材の活用等について、各機関の連携が図られるようにする。
- ・研修成果が学校現場をはじめ多くの実践に生かされ、広く還元されるために、授業評価等を含め、研修成果を評価する仕組みについて研究する。

### 「学び続ける教員」を支援する研修履歴



#### 1 研修の計画と実施状況の記録

- ・「評価・支援シート」等を使用して、教員一人ひとりが、年度当初に目標を含めた研修の計画を立案し、年度末に成果を記録する。
- ・長野県教育委員会が作成した資料を参考にして、自己評価を行う。

#### 2 セルフチェックシートによる振り返り

- ・指定研修を節目に、自らの学びと高めてきた資質能力について振り返る。
- ・クロスエイジセッション(異年代の教員とのディスカッション)により、実践の価値を見直す。

・学校長との面談で、アドバイスを受け、今後の研修の見直しを持つ。

「セルフチェックシート」 (このシートは、自らの研修の成果を評価し、今後の研修について考えるためのものです。)

セルフチェックシート (2年次研修)

評価 A:よく当てはまる B:どちらかという当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

資質能力	チェック項目	評価	実施した研修
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解	① 社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ② 教員としての責務の自覚 ③ 子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛		
B 確かな人権意識と共感力	① 全ての人の人権を尊重する態度 ② 児童生徒や保護者の思い(悲しみや喜び)を感じ取る力		
C 地域社会と連携・協働する力	① 地域社会の発展に主体的に寄与する態度 ② 郷土を愛し、地域の自然、歴史、文化及びそこに住む人々を尊重する態度		
D 目標実現に向け、柔軟に対応する力	① 知識や技能を常に刷新しようとする意欲や態度 ② 同じ目的に向かってチームで対応する力		
E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	① 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践する力 ② グローバル化、情報化、特別支援教育等の課題に対応できる力		

セルフチェックシート (5年経験者研修)

評価 A:よく当てはまる B:どちらかという当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

資質能力	チェック項目	評価	実施した研修
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解	① 社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ② 教員としての責務の自覚 ③ 子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛		
B 確かな人権意識と共感力	① 全ての人の人権を尊重する態度 ② 児童生徒や保護者の思い(悲しみや喜び)を感じ取る力		
C 地域社会と連携・協働する力	① 地域社会の発展に主体的に寄与する態度 ② 郷土を愛し、地域の自然、歴史、文化及びそこに住む人々を尊重する態度		
D 目標実現に向け、柔軟に対応する力	① 知識や技能を常に刷新しようとする意欲や態度 ② 同じ目的に向かってチームで対応する力		
E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	① 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践する力 ② グローバル化、情報化、特別支援教育等の課題に対応できる力		

セルフチェックシート (10年経験者研修)

評価 A:よく当てはまる B:どちらかという当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

資質能力	チェック項目	評価	実施した研修
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解	① 社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ② 教員としての責務の自覚 ③ 子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛		
B 確かな人権意識と共感力	① 全ての人の人権を尊重する態度 ② 児童生徒や保護者の思い(悲しみや喜び)を感じ取る力		
C 地域社会と連携・協働する力	① 地域社会の発展に主体的に寄与する態度 ② 郷土を愛し、地域の自然、歴史、文化及びそこに住む人々を尊重する態度		
D 目標実現に向け、柔軟に対応する力	① 知識や技能を常に刷新しようとする意欲や態度 ② 同じ目的に向かってチームで対応する力		
E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	① 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践する力 ② グローバル化、情報化、特別支援教育等の課題に対応できる力		

セルフチェックシート (キャリアアップ研修・40歳代)

評価 A:よく当てはまる B:どちらかという当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

資質能力	チェック項目	評価	実施した研修
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解	① 社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ② 教員としての責務の自覚 ③ 子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛		
B 確かな人権意識と共感力	① 全ての人の人権を尊重する態度 ② 児童生徒や保護者の思い(悲しみや喜び)を感じ取る力		
C 地域社会と連携・協働する力	① 地域社会の発展に主体的に寄与する態度 ② 郷土を愛し、地域の自然、歴史、文化及びそこに住む人々を尊重する態度		
D 目標実現に向け、柔軟に対応する力	① 知識や技能を常に刷新しようとする意欲や態度 ② 同じ目的に向かってチームで対応する力		
E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	① 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践する力 ② グローバル化、情報化、特別支援教育等の課題に対応できる力		

## 5 教員研修の評価

### 教員研修の評価及び「長野県教員研修体系」の評価について

#### 1 研修の評価

##### (1) 研修者の自己評価

研修の成果は、研修者本人が何を、授業や生徒指導などの教育実践にどのように活用したかである。そこで、研修後の研修者自身による自己評価を、研修の評価として重要なものと位置付ける。

- ① セルフチェックシートによる自己評価  
・2年、5年、10年、キャリアアップ研修時(およそ20年)のそれぞれに、セルフチェックシートを用いた研修の自己評価を実施する。
- ② セルフチェックシートや評価・支援シート等の記入にあたっては、学校長からのアドバイスを受け、自己評価する。

##### (2) 研修実施者の評価と改善

研修実施者は、研修の結果、教員の力量アップにどのような効果があったのかを常に客観的に把握し、研修内容や方法の改善に努める。

##### (3) 研修結果を広げる

研修者が、研修の結果を所属校や所属部署で広げることにより、研修効果はさらに上がる。それぞれの管理職は、研修結果を広げるための方策を練る。

#### 2 「長野県教員研修体系」の評価

##### 外部評価組織の設置

長野県教育委員会は、評価組織(外部の有識者等を含む)を設置し、教員研修の実施及びその成果について毎年評価し、研修体系の見直しを行う。この見直しを基に、次年度の研修を実施する。

### 長野県教員研修体系作成会議 委員名簿

- 松岡 英子 信州大学教育学部教授  
 伊藤かおる 株式会社コミュニケーションズ・アイ代表取締役社長  
 荒井英治郎 信州大学全学教育機構准教授  
 大倉 嘉郎 公益社団法人信濃教育会研究調査部長  
 北澤 嘉孝 小海町北相木村南相木村中学校組合立小海中学校長  
 小山 壽一 上田市教育委員会教育長  
 櫻井 達雄 長野県長野西高等学校長  
 佐藤 洋美 主婦  
 藤澤 令子 一般社団法人長野県経営者協会教育研修部課長  
 米持 絹子 長野県松本ろう学校長

人の世に三智がある。  
 学んで得る智、人と交  
 つて得る智、みづから  
 体験よつて得る智が  
 それである。

藤村

人の世に三智がある。  
 学(学)んで得る智、人と交  
 つて得る智、みづからの  
 體(体)験によつて得る智が  
 それである。

藤村

大桑中学校所蔵の掛け軸から

本県輩出の文豪、島崎藤村の自筆の書。「さういふ自分は今日に行き詰っているばかりでなく、出発のそもそもからすで行き詰っていた。でも、歩いて出るたびに道が開けた。地に触れるたびに活き返った」と続く。



「共育」クローバープラン

# 「長野県教員研修体系」実施に向けた工程表(案)

